



佐高 *SGH*通信 2020

スーパー グローバル ハイスクール

No.12 (2020年8月20日発行)

JICA筑波を訪問しました!

~青年海外協力隊員の体験談・質疑応答を中心に~

令和2(2020)年8月4日(火)10:00~14:00に、SGHクラブ海外班の高校1,2年生17名が、独立行政法人国際協力機構筑波国際センター(通称JICA筑波)を訪問しました。一番の目的は、マレーシアの高校生とのリモートでの国際共同研究を進めていくにあたり、島嶼部マレーシアに青年海外協力隊で活躍された経験をお持ちのJICA職員・柳詰ゆう紀先生に直接お話を伺うことです。現地で活躍された方ならではの貴重な情報が得られました。同時にそれ以上に、高校生たちはマレーシアの高校生の英語力の高さや知識量に圧倒されかけていたところ、柳詰先生からも「私も焦って…悔しくて…情けなくて…落ち込みました」との率直な体験談や、助言・激励を直接頂くことができたことが、再び前を向く大きなエネルギーとなりました。振り返りでは、後述のように、若者らしい前向きな感想を持つことができ、有意義な施設訪問となりました。

◇JICA職員の方々

- ・浅野 哲(さとし) 氏
- ・西山 さくら 氏
- ・柳詰(やなづめ) ゆう紀 氏

◇佐野高校から

- ・SGHクラブ海外班(高1,2)17名
- ・SGHクラブ顧問 高久順 大嶋浩行 片柳哲也

◇主な活動内容

- ・国際協力ワークショップ&発表
- ・施設見学(農業技術指導、民族衣装等)
- ・青年海外協力隊体験談
- ・振り返り活動



◆国際協力ワークショップの様子
“三密”に配慮し、体育館で実施しました

◆客観的に考えることの大切さを学びました。特にワークショップで意見を出し合ったとき、自分とは違う考えだった人の意見を聞いてとても実感しました(1年山崎 彩加)

◆言語力があっても自分から行く姿勢がないと始まらないと思います。それを、青年海外協力隊としてマレーシアに行かれた柳詰ゆう紀先生のお話を聞いて強く思いました。(1年 飯塚 莉子)



◆世界の民族衣装体験
(コロナのため実際の着用は不可でした)



◆施設見学
JICA施設の敷地内に農地があります。



◆振り返り。「JICAの役割」「多様性」・
「新しい世界に飛び込む」(1年 関根 圭太)



◆生徒の感想から

●今日は、発表する機会をたくさん設けていただいたおかげで、全員の意見を聞くことができました。一つの課題について、男女、学年に関係なく多角的にディスカッションでき、JICA の方々がどのような姿勢で国際問題に取り組んでいらっしゃるのかを実感できました。マレーシアは、まさしく多様性に富んだ国であり、チャットを通して話し合いをする度に新たな発見と課題がたくさん出てきて、国際問題の解決は先が見えない難しいものだと感じると同時に、やりがいも感じることができます。今取り組んでいる研究も、各班最終的にはまとめることとなりますが、それで完結するのではなく、今日の体験を生かしてそれぞれが継続して努力することが大切なのだと思います。（リーダー 2年 相田 紘夏）

●今回の JICA 訪問で、多くの情報を得ることが出来ました。現地に行かれた方のお話を聞けたり、目で見て学んだりと今後の役に立ちそうなものばかりでした。今回特に印象に残ったのは青年海外協力隊のお話です。良かったことばかりでなく、多くのリアルな葛藤や悩みを聞くことが出来今後何が必要か、何をすべきかわかりました。また、今いるこの環境に満足せず世界に目を向けていきたいです。（1年 磯崎 新太）

●自分は、ボルネオ島の動物達の問題がとても印象的でした。スリランカの場合では、プランテーションは子どもの将来を制限するものとして知ったのですが、マレーシアでは農業によって動物の命を奪うとは初耳で驚きました。ひとつの問題を様々な視点で考えることの重要性を知りました。（1年 小松崎 寛人）

●今回の JICA の訪問では、単に教えるのではなく、学び合うことの大切さを学びました。マレーシアやアフリカの国への JICA の活動を聞いて、先進国として技術を教えるのが目的ではあるが、そこから”日本人としてのあり方”や”新たな研究への材料”など、物事を何でも括弧で見ること、互いに学びを得ることが出来るのだと学びました。マレーシアの高校生との研究では、自分たちに比べてすでに多く調べてあることがあるが、気にせず、そこから自分も学び、相手にも教えていけるように、協力を大切にしながら研究していきたいと思いました。（2年 出井 公人）

●今日の JICA への訪問で客観的に考えることの大切さを学びました。特にワークショップでグループごとに意見を出し合ったとき、自分とは違う考えだった人の意見を聞いてとても実感しました。また、マレーシアに実際に 2 年間行った方のお話を聞いた際に文献調査では知ることの出来ない知識を知ることができ、今進めている研究にも取り入れていきたいと思いました。（1年 山崎 彩加）

●今日一日を通して学んだことは、学びの姿勢、積極的に取り組む姿勢を忘れないということです。言語力があっても自分から行く姿勢がないと始まらないと思います。それを、青年海外協力隊としてマレーシアに行かれた柳詰さんのお話を聞いて強く思いました。また、国際協力の経験は自分自身を大きく成長させてくれるということも学べました。苑その中でも、辛いことや落ち込むこともあったというお話を聞くことができ、とても貴重な経験となりました。（1年 飯塚 莉子）

●私が印象に残っていることは、自分から意欲的に行動を起こすということです。受け身の姿勢ではなく、自分からアクションを起こしたり、自分が知りたいこと、知らないことを自分から積極的に学ぼうとしたりすることが、一番大切なことだと思います。これから意識したいです。今日学んだことをこれからの研究などにも生かして、より良い研究にしたいと思います。（1年 中塚 麻耶）

●今日の JICA の研修で、私は何事にも、行動力が大切だと感じました。マレーシアの高校生たちとやり取りをする上でも、語学や文法を気にするという前に、知りたい、伝えたいという思いを行動に移すことが、自分達の視野、世界を広げるための鍵になるのだと思いました。また、これからの研究に役立つ多くの情報と資料を得ることが出来たので、この貴重な体験を研究に生かしていきたいです。（1年 岸 愛梨）

●私は今回の JICA 訪問で、考え続けることの大切さについて深く学ぶことができました。とても簡単なことのように見えるが、忙しく生活する私たちはどうしても考えるのを放棄してしまう問題がたくさんあります。その問題に対して、目を背けず、一人一人が考え続けることで、自ずと身近なところで行動に移すことができるのだと思いました。また、マレーシアの研究において大切な経験を積めたと思います。（1年 横塚 功樹）

●私は今日の JICA 訪問を通して、たくさんのことを学ぶことが出来ました。その中でも特に意見を伝えることの大切さが印象に残っています。今まで私は意見を相手に伝えることが苦手であまりしてこなかったのですが、これからは自分の中だけに意見をとどめるのではなく、相手と意見を共有して自分の視野を広げていけたらと思います。（1年 三田 彩花）

●今日 JICA に訪問して、マレーシアに行った人の話を聞いたりして、とても貴重な経験ができました。この体験を通じて思ったことは、人それぞれの考え方や見方があって、それを共有することで自分にはなかった新しい視点で物事を見ることができて、より良い研究をすることが出来るということが分かりました。私自身、自分の意見を人に話すことが得意ではないのですが、これからは、もっと積極的に自分の意見を述べたいです。（2年 大嶋 美聖乃）

●僕はこの研修で一つのことについて考え続けることの大切さを学びました。ワークショップでは一つのことでも色々な視点から見ることができ、多様性の大切さを改めて実感しました。また、世界には未解決の問題がたくさんあることも実感できました。これからの研究では自分が日本人であることに誇りを持ち、研究に積極的に参加し、意見交換をしていこうと思いました。（ 2年 原 悠馬 ）

●2年ぶりの JICA 訪問でしたが、2年の時を経て、物事の考え方、捉え方が変化し、より有意義な時間を過ごすことができました。ワークショップでは、視野の狭さを痛感し、思いもよらぬ考えに感化され、また一つ二つ知識の拡大を実感しました。全体を通して、物事に対する「姿勢」の重要性に気づきました。語学習得や海外協力でも、自らの姿勢によって、過程や結果が変化し、更に相手の振る舞いさえ変えてしまう姿勢が最も大切なことだと考えました。今後の活動においては、日本人らしい姿勢を忘れず、相手や課題に向き合っていきたいと思えます。（ 2年 後藤 秋浜 ）

●JICA 訪問で 1 番印象に残ったのは、ワークショップです。問題を解決するには客観的に見ることの他に当事者側に立ってみることが大切だと学びました。また、施設内は SDGs についてのことが目に見える形で表現(水 20ℓ の重さが体験できた。とても重かった。)されていて分かりやすかったです。（ 2年 山本 悠貴 ）

●今回の JICA 訪問では JICA の国際的に活躍する機関としての役割や、今まで自分が体感、経験してきたものとは全く異なる環境に身を置いた時での考え方等について深く学ぶ事ができました。そして今回特に自分の中で『人に関わる多様性』という概念が響いていて、以前まで人の価値観や倫理観といった人の性質に固執した物だと考えていたのですが、JICA の一員として活躍されていた方々の様々な話を聞いた事。そして、ワークショップを通じて、様々な環境によって、支援を合わせる必要があるのだと気づかされました。今後の研究ではこの『多様性』という言葉キーワードにして、活動していきたいと思います。（ 1年 関根 圭太 ）

●今日私が一番印象に残ったのは多様性と柔軟性です。勿論のこと、一つとして同じ国はありませんし、協力する側としてそれに柔軟に対応していくことの重要性を学びました。また、柔軟に対応することは決して簡単ではなく、本人の意志の強さ、意欲が最終的には根本になるという事も学ぶことができました。私達も国も文化も違う中でこれから研究をしすり合わせていく中で、多様性への理解と柔軟性が必然である事を改めて感じました。また、初めての試みである今年の活動は、私達の意欲によってこの先の道はどのようにでも、多様になると思いました。今回の体験をいい刺激にし、これからの交流などにも活かしていきたいと思います。（ 2年 内田 小温 ）

●今回の JICA 訪問で学んだことの中で、最も重要だと思ったことは、物事について様々な視点から見るということです。ワークショップでグループ内で意見を出し合う時に私たちのグループでは、それぞれ違う意見を出しましたが、理由を述べていくうちにたくさんの視点から見て考えました。その結果自分たちの中で一番良いと思われる予想を立てることができました。このような見方はこれからの研究にも必要だと思います。多様な場面で考えることを大切にしようと思いました。（ 1年 影山 結麻 ）

